

鍼灸

113

Vol.30 No.1/2014.Spring

OSAKA

Osaka Journal of Clinical
Acupuncture & Moxibustion

特集

原因不明の腰痛を治す

座談会 原因不明の腰痛に医療者としてどう臨むか

ア・ラ・カルト

レポート グループホームで認知症治療

寄稿 認知症周辺症状に対する吉村式擦過鍼法その後

「腰痛患者におけるトリガーポイントの選穴の
検者間信頼テスト」論文の重要性

フランス領レユニオン島と鍼灸

書評 日本人が書いた中医鍼灸実践マニュアル 下巻

技芸としてのカウンセリング入門

連載 鍼灸技術の構築に向けて④ 身近に!漢方 栄養学のはなし

ブレイクタイム 口伝の意味 生産地フィールドワーク余話

仕事の流儀 実録AcuPOPJ普及啓発作業部会④





谷川 浩隆 (たにかわ ひろたか)

1962年生まれ
 1987年 信州大学医学部卒業
 同大学医学部整形外科勤務
 1991年 癌研病院整形外科勤務
 1997年 J A長野厚生連安曇総合病院勤務
 2005年 同病院副院長
 2007年 信州大学医学部臨床教授
 2013年 谷川整形外科クリニック開業
 同年 「腰痛をここで治すー心療整形外科のすすめ」
 (PHPサイエンス・ワールド新書)を出版
 〈現 職〉 谷川整形外科クリニック院長
 〈連絡先〉 ☎390-0221 長野県松本市里山辺12090-1
 〈URL〉 <http://www.tanikawaseikei.jp>

非特異的腰痛とは原因がないのではなく、特定できない腰痛

司会：では、谷川先先生、改めて腰痛の基本的な特質をご説明いただけますでしょうか。

谷川：まず基本的なカテゴリーからご説明しますと、非特異的腰痛と特異的腰痛があります。特異的腰痛とは椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症や変形性腰椎症、あとはレッドフラッグと言われる疾患などがあって、それは全体の15%と言われます。残りの85%、つまり大半を占めるのが非特異的腰痛です(表1)。今回の座談会のテーマは非特異的腰痛ということですので、それに限って話をします。

非特異的腰痛といっても、やはりレントゲンを撮ると腰椎症にはみえるわけです。例えば50代の男性が腰が痛いと言って整形外科に来たらレントゲンを撮ります。そうすると当然のように変性が

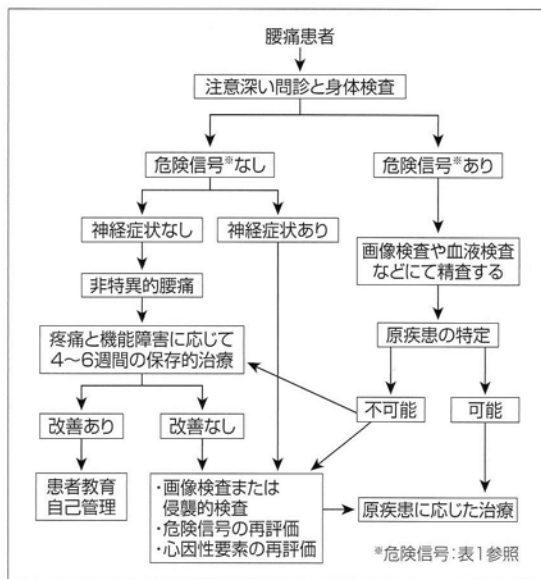


表1 腰痛の診断基準
 (腰痛診療ガイドライン2012第3章診断26pより)

あるわけです。骨が少しごつごつしてきて、骨棘(骨のとげ)が出てきていて、それが腰痛の原因かもしれないけれども、関係ないかもしれない。こりが見つかるかもしれないし、MRIを撮れば狭窄がみつかるかもしれないけれども、でもそれが痛みの原因かどうかはわからない。要するに非特異的腰痛というのは原因がないわけではなくて、原因が特定できないということで、すごく細かいいろいろな原因が集まっていると思います。筋肉、血管、自律神経、椎間板、椎間関節、そういうものを総合して、あとはそこに心理社会的要因も入る。そういうところからアプローチしていかなければいけないわけです。

司会：腰痛は疾患ではなくて症状だと言われたりするの、そういう原因がわからないことも理由の1つと考えていいのでしょうか？

谷川：腰痛は症状ですが、腰痛症は疾患です。

心からくる痛み

粕谷：谷川先生にお尋ねしたいのですが、心理社